

保存修復学	後期
-------	----

[講義] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○教授／斎藤 隆史 t-saito@ 准教授／松田 康裕 ymatsuda@ 講師／泉川 昌宣 s-izumi@ 助教／油井 知雄yuit@
非常勤講師／西谷 佳浩 非常勤講師／篠木 毅 非常勤講師／鈴木 茂樹

【概 要】

鑄造修復を含む間接修復法の基本的事項および技術を理解するとともにMIに基づく修復法との違いを理解する。歯科用レーザーによる硬組織切削について理解する。さらに破折歯・変色歯に対する処置法について理解する。

【学修目標】

- ☆ 鑄造修復法の各ステップの理論と方法を説明する。
- ☆ 各種セメントの性質、使用法を説明する。
- ☆ MI (Minimal Intervention) に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明する。
- ☆ う蝕およびその他の硬組織疾患に対する歯冠修復の臨床的意義を説明する。
- ☆ 歯の破折および歯の変色の原因、種類および処置を説明する。
- ☆ 術後管理について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	◎破折歯の処置	● 破折歯の処置について理解する。 ○「保存修復学」P.90-P.95 D-5-2-1-1	泉川 昌宣
2	◎象牙質視覚過敏症	● 象牙質視覚過敏症の症例提示により、検査・診断、治療法について理解する。 ○「保存修復学」P.84-P.85 E-5-3-1-7	泉川 昌宣
3	◎特別講義（歯髄・象牙質複合体と歯髄保護）	● 歯髄・象牙質複合体の保護と再生について学ぶ。 ○「保存修復学」P.9 P.122 E-5-3-2-3	西谷 佳浩
4	◎鑄造修復（1）	● メタルインレー修復の特徴、適応症、窩洞の特性、窩洞形成法を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 E-5-3-1-4 E-5-3-2-4	斎藤 隆史
5	◎鑄造修復（2）	● 印象材と印象採得法、作業模型の作製法を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 ● ワックス・パターンの調製法、埋没法を理解する。 ● 鑄造法、鑄造体の仕上げ・研磨、合着を理解する。 ○「保存修復学」P.193-P.207 E-5-3-1-4	斎藤 隆史
6	◎特別講義（歯科用レーザー）	● 歯科用レーザーの特徴と硬組織切削について理解する。 ○「保存修復学」P.106-P.107	篠木 毅
7	◎合着と接着	● 歯質と修復物との接着、歯科用セメントの種類、用途と所要性質を理解する。 ○「保存修復学」P.181-P.191 B-2-3	松田 康裕
8	◎コンポジットレジンインレー修復とセラミックインレー修復 (CAD/CAM)	● コンポジットレジンインレー修復について理解する。 ● セラミックインレー修復 (CAD/CAM) の特徴と修復法を理解する。 ○「保存修復学」P.207-P.211 ○「保存修復学」P.212-P.215 E-5-3-1-5	油井 知雄

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	◎変色歯の処置 ◎ラミネートベニア修復	● 変色歯の漂白法を理解する。 ● ラミネートベニア修復の材料と修復法を理解する。 ○「保存修復学」P.85-290 ○「保存修復学」P.224-231 - D-3-2-1 - D-5-2-1-1 - D-5-2-2-6	泉川 昌宣
10	◎修復処置後の術後管理と補修修復	● 修復処置後の術後管理と補修修復の方法を理解する。 ○「保存修復学」P.241-P.248 - D-5-2-1-8 - E-5-3-1-8	斎藤 隆史
11	◎アマルガムと水銀の取扱い	● アマルガムで修復された歯に対する取扱いに関する注意点について学ぶ。 ○「保存修復学」P.2 P.177-178	松田 康裕
12	◎特別講義	● 前後期の復習とまとめ。	鈴木 茂樹

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

◇保存修復学（前期）の評価方法

・〔保存修復学（前期講義）（前期実習）評価方法〕中間試験（45%）、定期試験（45%）、小テスト（10%）

前期実習は定期試験で実習内容について問う問題を出題し評価する。

前期実習の作成物、検印、レポートの評価は後期実習試験で行う。

・〔判定法〕中間試験（45%）、定期試験（45%）、小テスト（10%）で60点以上を合格とする。

◇保存修復学（後期）の評価方法

出席回数が講義70%および実習70%に満たない場合、定期試験および追再試験の受験資格を得ることはできない。

・〔保存修復学（後期講義）評価方法〕定期試験（90%）、小テスト（10%）

・〔保存修復学（後期実習）評価方法〕実習試験（50%）、製作物・検印及び小テスト・レポート（50%）

・〔判定法〕後期講義（50%）、後期実習（50%）、60点以上を合格とする。

◇保存修復学（前後期）評価方法

・〔判定法〕前期評価（50%）、後期評価（50%）とし、60点以上を合格とする。

【教科書】

前期と同じ。

【参考書】

前期と同じ。

【学修の準備】

☆ 指定した教科書の該当ページを事前に読んで予習しておく。（30分）

☆ 講義の最初に、前回の講義内容に係る小テストを実施するので復習をしておく。（30分）

・講義の最後にも小テストを行う。

【ディプロマ・ポリシーと該当授業科目との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、泉川 昌宣（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、油井 知雄（歯科医師）、
篠木 毅（歯科医師）、西谷 佳浩（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

学理に則った教育内容と実務経験を活かすことで、教育成果が期待できる内容となっている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している